

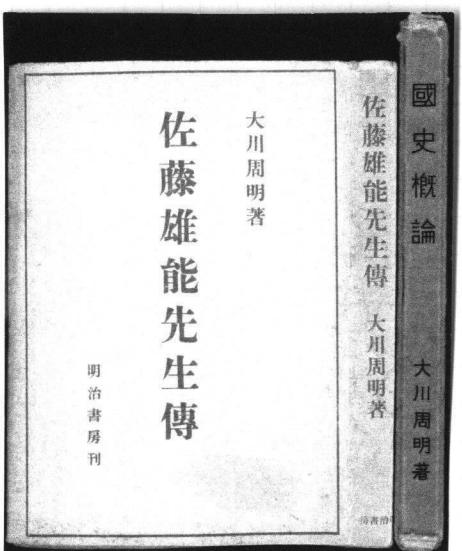
大川周明 おほいけ 評論家、法學博士。明治十九年十一月六日山形縣鶴岡生れ、昭和二十一年十一月二十四日歿（八六一―九五）。明治四十四年東京帝國大學文科大學哲學科卒。大正八年滿鐵（南滿洲鐵道株式會社）入社、東亞經濟調查會編輯課課長となる。老壯會同人を経て滿川龜太郎等と猶存社を、十二年には行地社を結成。昭和六年津久井龍雄、赤松克麿等と日本社會主義研究所を設立。翌年五・一五事件に連坐して下獄、十二年假出所、翌年拓殖大學教授。戦後戦犯容疑で收監し、精神障害を起し、二十二年不起訴。『大川周明全集』全七卷（昭和二十六年―四十九年刊）がある。

譯著書に、エルヘルム・ブツセツト著『宗教の本質』（譯、大正二年二月五日隆文館）、ポール・リシヤール著『告日本國（AU JAPON）』（和譯・松平康國漢譯、大正六年七月序・川島浪速刊。同『告日本國』譯、昭和十六年一月十一日青年書房）、同『第十一時』（譯、大正十七年九月二十五日大鏡閣）、『佐藤信淵の理想國家』（大正十二年一月一日社會教育研究所閣）、『日本精神研究』）、『平民の教師石田梅巖』（大正十二年二月一日社會教育研究所「日本精神研究」）、リシヤール著『永遠の智慧』（譯、大正十二年五月七日臺灣醒社書店。再刊・昭和十七年七月五日生活文化研究會）、『復興印度の精神的根柢』（大正十二年五月二十五日東洋研究會「東洋講座」）、『劍の人格本武藏』（再版・大正十二年六月



二十日社會教育研究所「日本精神研究」）、『上杉鷹山の政道』（大正十二年八月一日社會教育研究所「日本精神研究」）、『戦への膺上杉謙信』（大正

- 十二年十一月十五日社會教育研究所「日本精神研究」(、『朝野の專業及び人格』(大正十四年二月)「日本社會教育研究所「日本精神研究」)、『亞細亞・歐羅巴・日本』(大正十四年七月十五日大東文化協會)、『日本及日本人の道』(大正十五年二月二十日行地社出版部)、『中庸新註』(昭和二年八月十日大阪屋敷書店)、『國史概論』(昭和四年十一月二十日行地社出版部)、『日本の言行』(昭和五年一月二十日行地社出版部)、『國史讀本』(昭和六年九月二十七日先進社)、『再刊・十年十月二十七日日本青年社)、『復興亞細亞の諸問題』(昭和十四年四月二十日明治書房)、『再刊・平成五年四月十日中央公論社「中公文庫」)、『日本(一千九百年史』(昭和十四年七月五日第一書房「戰時體制版」)、『亞細亞建設者』(昭和十六年一月二十九日第一書房)、『近世歐羅巴植民史・一』(昭和十六年十月十三日慶應書房)、『米英東亞侵略史』(昭和十七年一月二十八日第一書房)、『回教概論』(昭和十七年八月二十日慶應書房)、『再刊・二十九年一月十日岩崎書店)、『大東亞秩序建設』(昭和十八年八月二十五日第一書房)、『佐藤雄能先生傳』(昭和十九年五月二十日明治書房)、『安樂の門』(昭和二十六年十月十五日出版書房)、『ポール・リシヤル著「告白本國」(談) 昭和二十二年一月二十日内外維新研究所「内外維新叢書」)等。
- 文獻心、大野慎著『大川周明博士の一千九百年史を讀む』(昭和十



四年十一月二十一日亞細亞出版社）、左山貞雄著『大川周明博士の思想』（昭和十九年一月二十日大波・大同書院）、野島嘉嗣著『大川周明』（昭和四十七年九月十日新人物往來社）等。